

【作品講評】

◎紹介文部門

賞	入賞者氏名 「作品の題名」 『書名』	講 評
金 賞	五十嵐 修 「戦勝国と敗戦国の狭間に散った学徒兵」 『最後の学徒兵』	冒頭で本の内容を端的に示し、本との出会いや内容の大筋、感銘を受けた点、おすすめの理由と続いていく文章の骨格・展開が素晴らしいです。内容の全てを語っていないからこそ「読んでみたい」という気持ちになります。ノンフィクションが読まれる機会が少なくなっている現代において、事実を基に戦争について考えられる本を紹介することに意義を感じます。
銀 賞	佐藤 佑樹 「辞書には人の想いが宿っている」 『辞書になった男 ケンボー先生と山田先生』	「辞書なんてどれもそんなに変わりはないだろう」という私たちに、「本当にそうか」と考えさせる題名となっています。ノンフィクションでありながら、「ミステリー小説を読んでいるように真相が気になり」という書きぶりに、この本への興味がそそられます。また、おすすめの理由が結びの一文に力強く、端的に表現されています。
銅 賞	日置 蘭 「52ヘルツのクジラたちへ」 『52ヘルツのクジラたち』	最初に「孤独な叫び声を上げ続けている人たちの物語だ」と本の題名を説明しています。そして、主人公の孤独に「苦しさ」を感じると述べながらも、読後に感じた「温かさ」は希望だと記しており、「苦しさ」と「温かさ」を比較する展開が効果的です。また、紹介文の最後には、おすすめの理由が明確に描かれています。

◎POP部門

賞	入賞者氏名 「キャッチコピー」 『書名』	講 評
ゴールド POP賞	牧村 幸 「とりあえず、走ることをやめてみない？」 『これからの哲学入門 未来を捨てて生きよ』	何が書かれているの本なのかと、キャッチコピーに目を引かれますが、文の冒頭に「人生の競争」とあり、そのつながりをすぐに理解できる工夫があります。「物の見方が変わる」「人生が好転する」等、読者にとってのメリットが示されていて、書名から堅いイメージの本に感じられますが、手に取ってみようという思いになります。
シルバー POP賞	廣瀬 徠人 「キミなら不老不死で百年だけの命を望むか？」 『百年法』	上下二巻、800ページを超える長編の特徴を端的にまとめています。「不老不死で百年だけの命」という意外なキーワードを含むキャッチコピーが目を引き、興味をそそります。「死と向き合う人々の心情の変化がとても面白い」とおすすめのポイントを示す一方で、我々はどう生きるべきかと考えさせ、読む人を引き付けます。
ブロンズ POP賞	松尾 木乃美 「心の傷に包帯を巻いてみませんか？」 『包帯クラブ』	「心の傷に包帯を巻いてみませんか」と気軽に試してみることを勧めるキャッチコピーに工夫があります。また、「心の傷にも手当てができることを教えてくれた本」とポイントを明確に伝えています。「ぜひ読んでいただきたい」と強く述べて結ぶのではなく、「願っています」と柔らかな実現希望の表現で結んでいるのも効果的です。

◎イラストPOP部門

賞	入賞者氏名 『書名』	講 評
ゴールド イラスト賞	石徹白 千瑛 『自立力を磨く お金と組織に依存しないで豊かに生きる』	葉書サイズの画面に細かく描きこまれ、たいへん時間がかけられています。その時間は窓辺の小瓶たち、埋め込まれたタイル等の他、線画とそれぞれの配色への丁寧な気配りに生かされています。暖色系でまとめられた画面の雰囲気がとても素敵な作品です。
シルバー イラスト賞	伊藤 花菜 『二木先生』	人物を中心に描くことが多い応募作品の中、写真から起こした手元のアップを表現した作品に個性を感じます。小説の一場面を表しているのかと思い、後に原稿用紙のマスの中に目を移すと、そこにキャッチコピーが書かれているという手法にアイデアがあり、人の目を引き付けます。
ブロンズ イラスト賞	吉井 綾子 『タイム・リープ あしたはきのう』	近年、本の挿絵等でも目にする機会が多いマンガ系イラストの画面ですが、絵柄・表情・ポーズ全てがとても丁寧に描かれていて、好感がもてます。説明文と背景のジグソーパズル風のデザインとが上手くマッチしていて、構想段階からよく考えられた作品です。